

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	吉川 久史
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学教授）市井雅哉 副主査：（鳴門教育大学教授）葛西真記子 委員：（兵庫教育大学教授）富永良喜 委員：（兵庫教育大学教授）有園博子 委員：（兵庫教育大学教授）海野千畝子
3. 論文題目	眼球運動が自伝的記憶の想起に与える影響
4. 審査結果の要旨	<p>論文提出による博士の学位申請者 吉川久史 から申請のあった学位論文について兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時： 平成28年8月17日（水） 15:00～16:00</p> <p>場所： 兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 第4講義室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>第1章 研究の目的と意義 本研究の背景と意義、目的、概要について記した。</p> <p>第2章 EMDRと眼球運動のモデルについて EMDRの概略、EMDRの治療効果を説明するモデル、眼球運動の効果を説明するモデル、眼球運動の種類について記した。</p> <p>第3章 先行研究のまとめ（研究1） モデルに則った研究を展望した。ワーキングメモリーモデルと大脳半球相互作用モデルでは大きく実験手続きが異なり、刺激呈示時にイメージを行うかどうか異なっていることがわかった。</p> <p>第4章 否定的な記憶に対する眼球運動の効果（研究2） 水平、垂直（いずれもサックード）、眼球固定という3条件で、効果を調べた。固定に比較して、運動条件はいずれも鮮明さ、感情強度が低下した。</p> <p>第5章 安全な場所のイメージに対する眼球運動の効果（研究3） 水平（サックード）、眼球固定という2条件で、効果を調べた。運動条件は、鮮明さは低下させなかったが、感情強度を下げた。</p>

第6章 安全な場所のイメージに対する2種類の眼球運動の効果の違い(研究4)

サックード、パシュート(いずれも水平)、眼球固定という3条件で、効果の違いについて調べた。鮮明さや感情強度に関して条件差はなかった。ただし、イメージへの没入についてサックードがより低下させた。

第7章 総合考察

全体の総合考察について記し、おおむねワーキングメモリーモデルを支持する結果となった。その意味では、肯定的イメージへのEMの呈示に対して支持は得られなかった。方法論上の限界も幾つか指摘し、今後の課題として、研究の方向性を提案した。

2. 審査経過

EMDR(眼球運動による脱感作と再処理法)はトラウマを扱える心理療法として、児童・生徒、教職員、一般成人など広く適用され、効果が報告されているが、眼球運動の役割や全体の方法のメカニズムについては未だ結論に達していない。さらには、安全な場所といった肯定的なイメージへの眼球運動の効果の研究も少ないのが現状である。本論文はこうした現状を把握し、それに対して示唆を与える基礎的な資料を提供する上で非常に重要であると言える。ワーキングメモリーモデル、大脳半球交互作用モデルの2つを中心に取り上げ、モデル間の関連についても議論している。本邦、海外を問わず、こうした試みはほとんど行われておらず、非常に独創的と言える。これらが明確化されることは、クライアントや治療者にとって、よりの確なEMDR使用について大きな示唆を与えることとなり、社会的貢献は測り知れない。

審査の中では、他のモデルとの関連、実験手続きの統制方法、他のモードの刺激(音刺激、タッピング)についてなどの質問が提示され、申請者は適切かつ明確に答えることができた。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、吉川久史の提出した学位論文が博士(学校教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。